

防衛のために

世界の破局を



3.18

土

福井大学国際地域マネジメント研究科主催講演会

14:00-16:00

福井大学文京キャンパス
総合研究棟V(教育系1号館)2階 大1講義室

ロシアによるウクライナ侵攻開始から約1年。解決への「出口」が見えないなかで、軍事行動がエスカレートし、ウクライナでの一般市民の犠牲が続いている。西側諸国によるウクライナへの戦車供与など武器支援が本格化するなか、ロシアによる核兵器使用や原発攻撃への懸念も高まっている。一方、パレスチナなど中東情勢は、ウクライナ情勢で世の中の関心が減り、「見えない紛争」となるなかで、占領下の抑圧とそれに抵抗する暴力の応酬が再燃している。大国や強国による国際法、国際秩序への挑戦に対して、日本を含む国際社会にはどのような手立てがあるのだろうか。G7(主要先進7カ国)のサミットを5月に被爆地広島で行う議長国日本の役割は何か――。

米国、中東、欧州で長年、特派員を務め、紛争地取材経験の多い記者による現状分析を踏まえて、戦争を防ぐ手立てや市民社会のあり方を考えてみたい。

講演者紹介

石合 力 (いしあい つとむ)

朝日新聞編集委員。1964年、大阪市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。88年、朝日新聞社入社。特派員としてワシントン、カイロ(各2回)とロンドンに勤務。国際報道部長、編集局長補佐などを経て現職。中東アフリカ総局長としてアラブの春やシリア内戦を、ヨーロッパ総局長として英国の欧州連合離脱(ブレグジット)などを現地取材。ウクライナには2018年に訪問した。国際関係、紛争地取材のかたわら文化関係、特にクラシック音楽に関する執筆も多い。著書に「戦場記者」(朝日新書)、「響きをみがく〜音響設計家 豊田泰久の仕事」(朝日新聞出版)。共著に「核兵器廃絶への道」(同)など。同志社大学客員教授。



特派員が見た ウクライナ・中東、 そして日本

Webから →
お申込受付中

締切日 3月14日(火)



お問合せ

✉ gcs-kanri@ml.u-fukui.ac.jp

☎ 0776-27-9956